

二級建築士、学科試験の合格率は36.6% 過半数が24歳以下

平成29年「学科の試験」合格者（全国）7,197人の主な属性

主な属性	区分	構成比
1. 受験資格別	学歴のみ	73.2%
	学歴+実務	9.0%
	実務のみ	17.2%
	建築設備士のみ	0.6%
2. 職域別	建設会社・工務店・大工	38.7%
	建築士事務所	12.2%
	学生・研究生	18.9%
	プレハブ住宅会社	13.0%
	その他、官公庁等、不動産業等	17.2%
3. 職務内容別	建築設計	26.6%
	施工現場管理	22.9%
	学生・研究生	18.7%
	技能労務（大工等）	4.8%
	工事監理	3.9%
	その他、営業、積算・見積等	23.1%
4. 男女別	男	69.5%
	女	30.5%
5. 年齢別	24才以下	52.1%
	25～29才	15.5%
	30才代	19.3%
	40才代	10.5%
	50才以上	2.6%
	平均	28.1才

総合資格は、8月22日に合格者が発表された平成29年二級建築士試験「学科の試験」について、分析結果を発表した。

今年の受験者数は1万9649名、合格者数は7197名、合格率は36.6%で、受験者数・合格者数ともに前年より減少。近年では最低となった。

合格者属性別割合では「24歳以下」が前年比5.2ポイント増の52.1%となり、初めて過半数をしめた。また、受験資格別における「学歴のみ」の割合も73.2%と過去最高を記録。受験資格を得た初年度に、二級建築士を取得することが主流になりつつあると考えられる。

建設業界では有資格者の確保が重要課題となっており、就職活動を有利にするため在学中に取得する学生や、入社1年目での取得を必須にする企業も多く、同社ではこうした動きが結果にあらわれたとみている。

試験については、図の読み取りに関する内容などで目新しい問題がめだつたほか、実務的な問題や1級建築士で問われる問題もあり、暗記にとどまらない深い知識が試される内容となった。

情報提供： 新建ハウジング

「第11回キッズデザイン賞」受賞作品298点が発表

特定非営利活動法人キッズデザイン協議会（東京都港区）が主催する「第11回キッズデザイン賞」の受賞作品が8月21日に発表された。応募総数462点の中から、YKK AP、パナソニックなどの作品298点が受賞した。各大臣賞などの優秀作品は9月25日に発表される。

今回の応募作品の傾向としては、保育従事者向けのITサービスが増加したほか、子育て層の孤立化を防ぐサービスや、親子のコミュニケーションを促すアプリおよびその周辺ツールなど、多様化が進んでいく様子が見え始めた。また、2015年4月からスタートした「子ども・子育て支援新制度」の影響によって関連施設の応募が増えており、他の自治体や地域でも展開可能な好例となる作品が今年も見られた。

「キッズデザイン賞」は、「**子どもが安全に暮らす**」、「**子どもが感性や創造性豊かに育つ**」、「**子どもを産み育てやすい社会をつくる**」という3つのデザインミッションを実現するための優れた製品・空間・サービスを選び、広く社会へ伝えるための顕彰制度。受賞作品には「キッズデザインマーク」の使用が認められる。



YKK・AP 断熱スライディングドア「コンコード」

情報提供： 新建ハウジング

小林建設を訪ねる、パッシブデザイン建築視察&事業化セミナーを開催



一般社団法人パッシブデザイン協議会は、9月12日に「パッシブデザイン建築視察&事業化セミナーin関東」を開催する。

地域工務店のトップランナー・小林建設（埼玉県本庄市）のパッシブデザインモデルハウス「コバケンLabo」および「ギャラリーhinosumika」を視察。小林建設が提案する最新のパッシブデザインのアイデアと心地良い「暮らし」を体感することができる。

視察後は埼玉グランドホテル本庄にて、小林建設代表取締役・小林伸吾氏と2つのモデルハウスに計画アドバイザーとして携わった同

協議会代表理事・野池政宏氏によるセミナーを開催。「小林建設の事業戦略から、パッシブデザインで勝ち抜く秘訣を探る。」と題して、**パッシブデザインを基軸とした事業化と成功の秘訣について解説する。**

参加費は、会員A8000円／人、会員B・非会員1万3000円／人。詳細はホームページまで。

情報提供： 新建ハウジング